

福岡市文学館定例講座「ももちはま草紙」第92回

安部公房と上野英信

——福岡・炭鉱を中心に

今年生誕100年を迎えた安部公房(1924-1993)は、小説のほか、多くの脚本を執筆するなど、映画にも深くかかわった作家です。福岡市総合図書館では12月11日から27日まで、映像ホール・シネラにて、安部公房が関わった映画など13作品を一挙上映する「安部公房生誕100年企画 安部公房と映画」を開催します。(企画の詳細は裏面)

今回、上映作の一つとして、福岡県内でロケを行った安部公房脚本作品「おとし穴」を取り上げるのにあわせ、安部公房が脚本執筆にあたって参考にしたとされる記録文学者・上野英信の作品や、その他二人を巡る関係性について、映画と文学の両面から二人の安部公房研究者にお話を伺います。

日時 2024年12月14日(土) 14時～15時15分(開場13:30)

映画「おとし穴」(1962年 / 安部公房脚本、勅使河原宏監督)

2024年12月14日(土)・26日(木)11時～ 同会場で上映(有料・大人600円)

会場 福岡市総合図書館 福岡市早良区百道浜3-7-1

1階映像ホール・シネラ

定員:242席(当日先着順・事前申込不要)

地下鉄 西新 / 藤崎から徒歩15分 西鉄バス 福岡タワー / 博物館南口から徒歩5分

講座のみ
参加無料

対談 友田 義行 氏(ともだ・よしゆき)

甲南大学文学部教授。専門は日本近代文学・映画研究。主な著書に『戦後前衛映画と文学 安部公房×勅使河原宏』(人文書院、2012)、『フィルムメーカーズ22 勅使河原宏』責任編集(宮帯出版社、2021)、共著に、『ジブリ・アニメーションの文化学 高畑勲・宮崎駿の表現を探る』(七月社、2022)などがある。勅使河原宏監督の『1日240時間』『爆走』などのデジタル化と上映運動を展開している。



中野 和典 氏(なかの・かずのり)

福岡大学人文学部教授。専門は日本近代文学。安部公房の作品について、同時代的な言説や現代思想との関わり、国語教育における受容などの観点から研究している。共著に『安部公房『砂の女』作品論集』(クレス出版、2003)、論文に「地図と契約—安部公房『燃えつきた地図』論—」(『日本近代文学』(81)、2009)、「見ること、書くこととの不可能性と可能性—安部公房『箱男』論—」(『近代文学論集』(46)、2021)ほか。

